

ロービングアンパイアマニュアル

チェアアンパイアがつかない試合では、レフェリーが3～4面に少なくとも1人のロービングアンパイアを配置しなければならない。

レフェリーはセルフジャッジの方法を大会会場内に掲示してプレーヤーに周知するよう努めなければならない。セルフジャッジの試合ではトラブルが起こる可能性が考えられるので、試合中のプレーヤーがすぐにレフェリー、ロービングアンパイアを呼ぶことができるよう、コートの外周をできる限り巡回することが重要な仕事となる (JTA TENNIS RULE BOOK2020 より抜粋)

ロービングアンパイアのやり方

1. ロービングアンパイアの仕事

- (1) 試合コートチェック (ネット、シングルススティック、サーフェス、忘れ物、落とし物など)
- (2) ウォームアップの前に、プレーヤーの名前、ゲームウェアの確認、トスを見届ける
- (3) 試合終了後、両選手と確認しながら試合結果報告書に記入し、勝者に渡す
- (4) 必要があれば、ルール問題および事実問題についての判定をする
- (5) 必要があれば、プレーヤーにラインコールの方法を指導する
- (6) 必要があれば、プレーヤーの判定をオーバールールできる。しかし、プレーヤーからのアピールの後にオーバールールすることはできない
- (7) 必要があれば、クレーコートではBMI (ボールマークチェック) ができる
- (8) 必要があれば、試合コート内へ入り、タイムバイオレーションおよびコード違反者にペナルティを科す **参考**: プレーヤーはポイントが成立してから下に示す時間以内に次のポイントを始めなければならない **ポイント間25秒、エンドチェンジ90秒**
- (9) 判定・コールに関するトラブル (クレーコート以外) の対応は以下の通り行う
 - ① その事実を見ていなかった場合、コールした選手に対して、その判定は正確に行ったかどうかを尋ねる。正確に判定したことが確認された場合はそのコールが成立する
 - ② その試合に主審を付けたほうが良いと判断した場合は、SCUをする主審を付けることができる。主審はレフェリーまたはロービングアンパイアが務める。
 - ③ レフェリー、ロービングアンパイアのいずれかがコート外にいて目に余るミスジャッジを目撃した場合は、コートへ入り、故意ではない妨害 (1回目) としてポイントレットにする。ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかなウイングショットまたはエースだった場合は、ミスジャッジをしたプレーヤーの失点となる。そして2回目以降は故意に妨害したとして失点することをプレーヤーに伝える。プレーヤーがわざとミスジャッジをしているとレフェリーが確信した場合は、上記失点に加えてスポーツマンシップに反する行為のコード違反を科すことができる

2. ローテーションの組み方

ロービングアンパイアの集中を維持するために、45分～1時間での交代を推奨する。ただし、会場の規模や役員の数の不足などの状況によってはその限りではない。

3. ロービングアンパイアのBMI (ボールマークチェック)の手順について

- (1) BMI は、クレークコートのみで行われる。
- (2) プレーヤーが BMI を要求できるのは、最後に放たれたショットに対してである。
- (3) マークの位置がわからないときは、マークの位置を両プレーヤーに確認することができる。
両者が示すボールマークの位置が食い違う場合、あるいは判定できるほどのマークが残っていない場合は最初のコールが成立する。ただし、必要以上に BMI を申し出るプレーヤーには、レフェリーが適切な処置 (コートレフェリーを付ける、SCU方式を採用するなど) をとる。
- (4) ロービングアンパイアがボールマークを確認し判定をした場合、その決定は最終で、それ以上プレーヤーがアピールすることは許されない。
- (5) プレーヤーによる「フォールト」「アウト」の判定が、ロービングアンパイアの判定で「グッド」になった場合、1回目は故意ではない妨害としてポイントレットとし、2回目以降は失点となる。
- (6) ロービングアンパイアが BMI の最終判定をする前に、プレーヤーが自らボールマークを消した場合は、プレーヤーは相手プレーヤーにポイントを譲ったと判定する。

4. コード オブ コンダクト

- (1) 許可なくコートを離れる
- (2) ベストを尽くさない
- (3) 試合を途中放棄する
- (4) タイムバイオレーション ポイント間 25 秒、エンドチェンジ 90 秒
1 回目→警告 2 回目→サーバーはフォールトが科される
レシーバーはポイントペナルティが科される
- (5) ゲームの遅延
例: 前のポイントから 25 秒経過しても次のポイントを始めない→タイムバイオレーション→そこからさらに 25 秒経過しても次のポイントを始めない→コードバイオレーション
- (6) 故意による施設または設備の損傷
- (7) ボールの乱用
- (8) ラケットや用具の乱用
- (9) 言葉による侮辱
- (10) 身体に対する危害
- (11) ひわいな言葉・しぐさ
- (12) コーチングおよびコーチ
- (13) スポーツマンシップに反する行為
- (14) 妨害応援

上記の違反があった場合、下記の通り、ペナルティを科す

- | | |
|---------|---------------|
| 1 回目の違反 | 警告 |
| 2 回目の違反 | 1 ポイントを失う |
| 3 回目の違反 | その都度 1 ゲームを失う |

3 回目の違反の後には、違反のたびに失格を与えるかどうかレフェリーが判断する。ただし、重大な、あるいは悪質なコード違反の場合は 1 回目であってもレフェリーが失格を決定することができる。失格者は、そのトーナメントの他の種目に出場できない。(遅刻による失格は除く)